



パッケージが決め手 エコビジネスに挑戦 株式会社 はやと企画



<高輪地区所属>
株式会社 はやと企画
代表取締役社長
瀬戸口 正之
せとぐち まさゆきさん

◆ 箱と看板、立体物が得意

「うちは立体物が得意なんですよ」と身乗り出した。なんのこたかな。商品を入れる箱のことだという。たかが箱と思ったら大間違い。箱は商品がまとう衣装である。最初に目に入るのは箱だ。デザインを練ることから製作までを一手に引き受けている。「どうしたら、目立つのか、どういうデザインなら手にとってもらえるのか」。物が良くても、衣装がみすばらしくては、売れるものも売れない。

「大事なものは、まず注文主の意向をよく聞くことです。その中で商品売りたい層、どこをターゲットにするかを定めることから始まりませう。20代の女性か、中年男性か。デザインを提案し、注文主ととことん話し合う。デザインは分かりやすく、インパクトのあるものを心がける。「チラシやパンフとは違います。パッケージは商品そのもの、買うかどうかの決め手になる」という自負がある。

立体なのは箱だけではない。カンバン作りも手がけている。こちらは

大量生産とはいかない。個別の注文を受けて製作する全くの手作り、独特のノウハウがある。これこそ千差万別、大きさまである。小さなバーのカンバンからレストラン、ビル全体に取り付けるものまで、実に幅広い。「江戸川競艇の電飾カンバンは横が15mもありましたよ」。人をその場所に誘導する。確かにカンバンを見れば、店の雰囲気も、格もわかる。アイデアとセンスに職人技の勝負だ。提案もコンピューターグラフィックスを駆使して、立体映像で見せる。顧客も納得だ。実際の製作は横浜にある工場。ネオン技術者として、業界でも知られ一流の腕を持つ弟に任せている。

◆ 森を育てるパッケージ

7年間、重電メーカーに勤め、父親の後を継いだ。父は会長、弟も役員。「親子3人で経営しています」。1月から新しいチャレンジをしている。流行りのエコとビジネスを結びつけ、新展開を計ろうという。各付けて「森を育てるパッケージ」である。どこの企業も自分で出したCO₂

の削減を迫られる時代。そこに着目した。箱の代金にプラスアルファで、排出したCO₂を相殺できるカーボンオフセットと植林事業を合わせて実現できる商品設計である。

例えば、20個の箱を買う時に1円を余計に払う。このうち25銭はカーボンオフセットの費用に、75銭は植林事業に回る。これで箱の製造から焼却までに出るCO₂はゼロと計算され、森林造成にも参加したことになる。箱を買った企業は、政府認定プロバイダーから排出権償却移転証明書、植林認定証を買える。そのカーボンオフセット認定プロバイダーと契約を結び、はやと企画を通さないと出来ない仕組みを作ったのがすごいところだ。

「パッケージ業界では、初めてです。手ごたえがありますね。いままで相手にしてくれなかった大手企業が話を聞いてくれます」と、瀬戸口社長はビジネス拡大に大きな意欲を見せる。これからが楽しみな会社である。

株式会社はやと企画/高輪1-4-26 高輪東館ビル503/☎ 3444-5766
●会社概要、事業内容などの詳細は、下記URLをご覧ください。



製造売上げの一部で二酸化炭素を吸収する森を広げます!

1円で出来る貢献!



●各種パッケージの企画・デザイン・制作・印刷は【箱屋net】⇒ <http://www.hakoya-net.jp/>
●店舗サイン・施設各種サインの企画・制作・施工は【看板net】⇒ <http://hayatoplanning.jp/> をご覧ください。